

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： タンパク質を制御するペプチドのデザイン AI

2. 個人研究者名

大上 雅史（東京工業大学 情報理工学院 助教）

3. 事後評価結果

本研究は、製薬などの観点からニーズが極めて大きいタンパク質相互作用を制御するペプチドを設計することを目標としている。ACT-X の研究過程で、研究分野をとりまく技術状況が大きく変化したこともあり、最新技術を適切に取り入れつつ必要な技術開発を柔軟に進めてきた。その結果、ニーズが大きい分野ということもあり、企業やタンパク質分野の著名な研究者との共同研究につながった。一方で、当初の目的であったタンパク質の相互作用を制御するペプチドを設計するという目標は変更となった。

論文出版も順調である。共同研究も多数展開しているが、初期段階にとどまっており、今後波及効果の大きい成果が出てくることを期待する。